

環境志向型のスノーリゾート地を目指す

一般社団法人日本スノースポーツ&リゾート協議会 副会長
公益財団法人全日本スキー連盟 理事

神田 昌幸



地球環境問題

ハワイ諸島とオーストラリア東部ブリスベン市とのほぼ中間に、ツバルというサンゴの環礁で出来た群島がある。地球温暖化により海水面が上昇すると水没すると言われている国だ。こういう標高が低く海面が目の前にある国では、CO₂濃度上昇に起因する地球環境問題について、否が応でも考えざるを得ない。振り返って雪国はどうか、たまたま2021-2022の冬は数多くの地域で例年よりも降雪量が多かったようであるが、中長期的にみると、明らかに雪は少なくなってきており、スノースポーツを楽しめる期間も短くなる傾向にある。地球温暖化は、当然のことながら、夏がより暑くなるだけでなく、冬の気温があまり下がらなくなり寒さが緩むのである。

これは、深刻な事態である。スノースポーツが出来る環境が存続するかどうかは、他ならぬ地球温暖化問題と表裏一体の大きな地球環境問題なのだ。スキーやスノーボードを楽しみ、雪に親しむことは、地球温暖化進行の危機感を肌で感じる事が出来る絶好の機会である。否、その危機感を是非とも感じ取らなければならない。楽しみながら、地球環境保全の重要性を学ぶのである。

雪国の自然を通して、そうした地球環境保全の重要性を学習できる環境を作るべきである。そして、雪に親しむことが、地球環境保全に向けて個々人が具体的なアクションを起こすきっかけとなることが望ましい。

危機感の重要性

雪国であるために

子供たちには、修学旅行でスキーを学ぶ機会に合わせて、また、中国、台湾、東南アジア等から雪を目指して我が国に来られる観光客には、我が国の雪国の素晴らしさに感動して頂く機会に合わせて、この雪国が雪国であるためには、地球環境を保全し地球温暖化の速度を減速させることが重要であることを知ってもらいたい。

今後将来に向け雪が降らなくなりスノースポーツが出来なくなるということは、地球温暖化が益々進み、異常気象のために災害が増え、海面が上昇し、地球の生態系も変わってしまうことであることを、知ってもらいたい。

しかし、その場合にも、いたずらに危機感を煽るのではなく、正しく知って頂くことが重要である。雪山の美しさ、四季の変化の素晴らしさ、スノースポーツの楽しさ、豪雪地域ならではの生活スタイルや建築様式、そうした雪国の独特の自然と文化を、様々な人々に知ってもらいたい。また、克雪から利雪、そして親雪へ、人と雪との関係も日々進化し、雪の価値も変わりつつあることも知って頂きたい。

独特の自然と文化

環境志向型のスノーリゾートへ

このように一人一人ができるアクションに気づいてもらえるよう地球環境保全の大切さを訴えかける、そういう環境志向型のスノーリゾート地を目指すことは、決して夢物語ではない。温暖化と国内のスノースポーツ人口減によりジリ貧となるのではなく、地域経済に根付きながら、環境保全を志向する、そうした新しいスノーリゾートのあり方を模索していくことも、これからのオールタナティブの一つである。

神田 昌幸 / Kanda Masayuki

大和ハウス工業（株） 常務理事
大阪府・市 特別参与

1986年京都大学大学院工学研究科土木工学専攻修了、同年建設省入省。

2016年7月より東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 局長（2018年4月～2022年3月 輸送局長）。2022年4月より現職。

この間、倉敷市助役、国土交通省都市局まちづくり推進課室長、富山市副市長、国土交通省都市局街路交通施設課長、国土交通大学校副校長等を歴任。景観施策、コンパクトシティ政策、LRT等公共交通支援、健康まちづくり等を推進。

同時に、筑波大学大学院客員教授、京都大学大学院非常勤講師、東京工業大学非常勤講師、(株)まちづくりとやま代表取締役社長、富山ライトレール(株)副社長等を歴任。2020年12月より公益財団法人全日本スキー連盟理事、2021年10月より一般社団法人日本スノースポーツ&リゾーツ協議会副会長。

富山駅駅前広場・自由通路・LRT軌道は2017年度グッドデザイン賞を受賞(プロデューサー)。